

松山市教育会情報

発行所 松山市教育会
松山市祝谷町1-5-33
☎ 089-933-0354
発行者 亀井 壽一
編集 調査研究部

最後の学校への私の思い



副会長
石丸 正



津和地島から見る冬の雲

今年度、松山市中学校校長会のお世話をしている関係で理事会や支部長会などに参加し、松山市教育会とのつながりを今まで以上に身近に感じながら様々なことを学ばせていただいております。

この春から教育会OBとしてスタートする私にとって、今まで以上に月日の経つのが速く感じるようになってきました。微力な人間が今日まで仕事を続けられたことに、多くの方々のご指導やお力添えがあつたのことに感謝し、教職員とともに、生徒一人一人の成長を思い描き、仕事をしております。

さて、今回は「最後の学校への私の思い」というタイトルで、本校の様子について少し触れさせていただき、あいさつとさせていただきますと思います。

今年度始め、内宮中の生徒との合言葉として、始業式で「内中5チャレンジA」を投げかけました。Aで始まる5つのことに、教職員の力も借りながら挑戦していこうという私の思いです。

1つ目のAは、「あいさつ」です。明るく、丁寧なあいさつができるよう、社会人として、是非この時期に身に付けさせておきたいという思いです。

2つ目のAは、「あせ」です。勉強や学校行事、部活動やボランティア活動にさわやかなあせを流し、中学校生活を思い出に残るものにしてほしいという思いです。

3つ目のAは「あきらめない心」です。心も体も頭も大きく成長していく時期だけに、いくつもの壁に出くわします。一つ一つの壁をあきらめずに乗り越えていく粘り強さを培ってほしいという思いです。

4つ目のAは、「後始末」です。成長するときには失敗がつきものです。後始末をきちんとして前進してほしいという思いです。

最後のAは、「ありがとう」です。自分を取り巻く多くの人の支えで今の自分があるという意識をもってほしいという思いです。

これらの合言葉は、私を含めた教職員と生徒の共通の合言葉でもあります。生徒とともに成長していきたい、そんな教職員でありたいという思いでもあります。お陰で、成長している生徒の姿を見かけるようになってきました。多くの先生方のご指導をいただき、全教職員が力を合わせて四国道徳教育研究大会に取り組んできた成果であると思っています。研究のための研究にはしたくない私の思いは、いつの間にか本校教職員の思いと共通するものになっていました。

この春から市教育会OB1年生です。自分にできることを見つけ、少しでも地域のこどものためになることに取り組んでいきたいと考えています。
(松山市中学校校長会長・内宮中学校)

※「坂の上の雲」にちなんで、雲の写真を募集しています。事務局へお寄せください。

平成22年度 報 賞 者

(五十音順)

松山市教育会



(元たちばな小)
青井喜代久 先生
事務局長



(石井支部)
岡田 武博 先生
支部長



(久枝支部)
小池東三郎 先生
理 事



(元和気小)
小坂 真也 先生
事務局長



(北条支部)
高木 毅 先生
理 事



(東雲支部)
竹田 弘幸 先生
支部長



(番町支部)
廣瀬 幸一 先生
支部長



(元荏原小)
藤原 利親 先生
理 事



(元湯築小)
星川 周作 先生
事務局長



(高浜小)
堀内 靖志 先生
事務局長



(北条支部)
三嶋 良則 先生
支部長



(粟井支部)
山中 格 先生
支部長



(元窪田小)
山本 照夫 先生
事務局長

「えひめ教育の日」記念事業

「まつやま教育フォーラム22」高齡慶祝者名簿

白寿・傘寿

No	氏名	性別	支部	No	氏名	性別	支部
白寿	金崎久男	男	高浜	37	三原孝教	男	余土
白寿	大森尚敏	男	みどり	38	飛田傳太	男	久米
傘寿1	伊賀上美智子	女	番町	39	高月カクエ	女	浮穴
2	大野昭子	女	味酒	40	山田福重	男	浮穴
3	宇野順作	男	東雲	41	黒川省三	男	小野
4	藤本満	男	清水	42	長井與子	女	小野
5	松原旭男	男	清水	43	渡部晴親	男	小野
6	松原和良	男	清水	44	團上朝雄	男	石井
7	生田仁道	男	清水	45	田中正芳	男	石井
8	今村薫明	男	素鷲	46	玉井良昭	男	石井
9	渡部邦昭	男	素鷲	47	上甲修	男	荏原
10	今村美由紀	女	素鷲	48	中村勝馬	男	荏原
11	川井正治	男	堀江	49	大上和男	男	石井東
12	木本祐輔	男	堀江	50	仙波恒信	男	北久米
13	渡部安良	男	久枝	51	北村須磨子	女	北久米
14	宮田良一	男	久枝	52	松本幸男	男	石井北
15	谷本幸子	女	久枝	53	渡部孝雄	男	さくら
16	三原慶久	男	高浜	54	白石和子	女	さくら
17	森寛定	男	高浜	55	筆脇基	男	さくら
18	舛久英賢	男	桑原	56	関谷省三	男	さくら
19	樋口均	男	桑原	57	武智昭彦	男	みどり
20	渡部仲次	男	桑原	58	白方潔	男	みどり
21	森和敏	男	桑原	59	村井弘	男	みどり
22	秀野長俊	男	生石	60	藤本洋子	女	みどり
23	土居治子	女	垣生	61	石丸澄子	女	福音
24	濱住祥郎	男	道後	62	富田豊	男	福音
25	光宗孝男	男	道後	63	藤原章子	女	福音
26	山上亘子	女	道後	64	田村明子	女	福音
27	池田泰昌	男	道後	65	和泉頼重	男	窪田
28	門屋桂子	女	道後	66	池水公則	男	窪田
29	大西高士	男	道後	67	川端正	男	姫山
30	東隆郎	男	道後	68	山野芳幸	男	姫山
31	上田千鳥	女	道後	69	濱田喬	男	姫山
32	鷹野忠彦	男	湯築	70	渡部智歳	男	難波
33	大西倭子	女	湯築	71	西原明	男	正岡
34	篠崎嘉一	男	余土	72	松木ヒサ子	女	北条
35	山中重忠	男	余土	73	安井禎子	女	北条
36	上岡重夫	男	余土	74	平松秀孝	男	粟井

思い出の学校



日吉中学校の思い出

三原 慶久 (高浜支部)

小・中合わせて38年間勤務した中で一番印象に残っているのは、新採の時の日吉中学校(北宇和郡日吉村立、現在は鬼北町)である。

当時、松山から列車で約2時間、バスで約3時間。やっと目的地に着いて驚いたことは、任地が山村の田舎だと思っていたが、立派な街路をなしていたことである。中学校は高台にあり、木造で太い柱の堅固な造りであった。

翌日、校長から、「君は大学出の学士さんだから、いろいろな教科を担当してもらいますよ、いいね。」と言われ、これにはさすが参ってしまった。後日の校内人事で2年の学級担任、3年の数学、2年の社会と体育、1年の英語の4教科担任と数学主任ということであった。数学、体育は免許教科外である。その上、当時北宇和高校の分校が校庭内にあり、週に4時間兼務することになった。生徒こそ迷惑なことであったが、幸い生徒は素朴で素直であったのと、未熟な指導にも一生懸命に伝えてくれたことは、一つの救いであり、喜びでもあった。

体育の授業では、私の趣味でもあるラグビーゲームや器械体操を採り入れ、生徒は興味深く取り組んだものだった。放課後は部活動が活発で、バレーボールの指導に当たり、郡大会で活躍した。

この日吉中学校は校区が広く、一番速い家庭は学校から16kmぐらい離れており、中学校では珍しく寄宿舎があった。そのため、学校の宿直以外に、寄宿舎の舎監も兼ね、夜も生徒の話し相手になったものだった。また家庭訪問が大変で、一日に一軒だけの訪問になってしまったこともあった。冬季は雪が深く積もり、学校を臨時休校とすることもあった。

休日などは、よく遊びに来た5、6人の女生徒が何の屈託もなく、私の松山弁の真似をして笑い喜び楽しんでた。中学生といえども本当に無邪気なものだった。

あれから50有余年経た今日、ある面は自由奔放に、その反面精力的に活動した新卒当時の赴任地の学校の様子や生活が懐かしく思い出されるのである。

あしたを照らす灯台島

門屋 桂子 (道後支部)

昭和55年、同職の夫の希望で釣島分校へ。町の暮らししか知らない私の生活は全て一変した。三津から「トーカイサン(渡海船)」で釣島へ。一島一家族のように協力して生活。分校は複式学級で8名だった。生活水に一番苦労した。

当時、上級生が下級生と一緒に小高い所へ。小型モーターでの水の汲み上げが始業前の日課だった。水は島民の生活用や分校の湯茶用、教員住宅の生活用など、共同で大切に使った。

自然は美しく厳しい。満月の深夜、海面が金波銀波に輝く。霧笛が響き蝉の大合唱を聞く頃、海では蝉えびが獲れる。茹でたのを賞味。

分校では、愛媛新聞主催の学校新聞や夫のライフワークの俳句など、児童は度々入賞した。私は複式学級で“待つ”の大切さを知った。純朴な児童が卒業し町の大規模校で埋没しないよう、言動に自信を付けさせた。新校舎、新教員住宅、校訓碑も建ち、夫の作詞した分校校歌も完成した。

時移り、地元の熱望と各行政の協力で港は整備され、定期船の運航、水問題も好転していると聞く。私どもと保護者との交流は今も続いている。



釣島分校の校訓碑

富田中学校の思い出

関谷 省三 (さくら支部)



中学校23年、県教育委員会9年、校長5年、合計37年間奉職した中で、一番印象に残っているのは、新採で勤務した越智郡富田村立富田中学校である。

下宿1年自炊2年の3年間であった。特に印象に残っているのは、今治市桜井の宮ヶ崎に下宿していた頃である。夏休みや春休みで帰省する時には、汽車賃が借しくて桜井の奥から松山の余戸までの60数キロを、中古の自転車を踏み往復したことも何度かあった。

今治から菊間を通して自転車を踏むと、腰が痛くなった。また近道を探して北条から立岩川を経て玉川町へ出る道を通ったこともあった。当時は国道も県道も舗装道路ではなく狭い砂利道で、自動車が来ると道端に降りて砂塵を吸わないよう呼吸を止めていた。

農学部卒業の私にとって教員になる自信もなく不安に包まれた赴任であった。理科を担当した私の「太陽は東から出て西の海へ沈む。」という第一声は、「先生、西は山です」という声にかき消された。それからは地域の自然を取り入れ、玉川町まで歩いたり桜井の海岸でカブトガニを獲って遊んだりした。

辛い思い出としては、初めての自炊がある。家から運んだ七輪に鍋をかけて飯を炊いたり、寒風の中で洗濯板で洗濯をしていた。当時はコンビニもスーパーもない時代であった。でもこんな私を富田村の皆様方、そして先輩の先生方や生徒の皆さん方に温かく迎えられたお陰で、思い出に残る楽しい3年間であった。有り難うございました。当時の教え子も72歳、毎年今治から余戸まで訪ねて来てくれて、楽しい時間を過ごしている。

「ふるさと勝山」との出会い

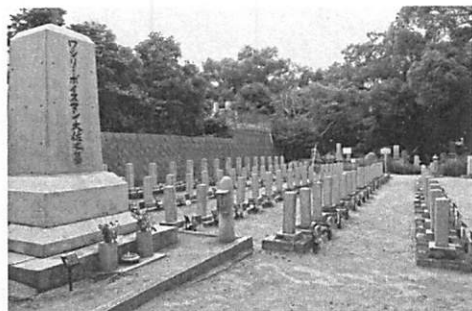
森 和敏 (桑原支部)

私の教職最後の学校は、勝山中学校である。勝山中学校は、赴任するとまず地域の文化や歴史を知るために文化財巡りをすることになっているが、ここで出会ったのが、「ふるさと教育」の大先達である山野芳幸校長であった。お若い頃から赴任地でふるさと教育を展開され、それが「ふるさと勝山」に結実し、さらに「ええとこぞなもし」シリーズにつながって大輪の花を咲かせた方である。

さて、山野校長指導のもと全教職員で取り組み発刊されたのが、280頁を超える「ふるさと勝山」である。地域に残されたすばらしい文化財に触れ、未知の事実を知るときめきを味わい、地域理解を深めることができた。もちろん私も「ふるさと勝山」の中に、調べ、集め、文を書いているが、これほど多岐にわたる行き届いた本を作ることに参加できたことは貴重であった。今でも「ふるさと勝山」は私の本箱のすぐ手の届く所に鎮座している。

ユニークなのは、校区にあるロシア人墓地を清掃する奉仕活動である。日露戦争を戦った帝政ロシアは貴族と平民の身分に分かれ、貴族が上官で平民は兵隊であった。戦場ではロシア兵は「マツヤマ！」と叫んで松山を選んで投降してきたと言われている。ワシリー・ボイスマン大佐以下98名が、来迎寺で、ふるさとの北の方を向いた墓で永遠の眠りにについている。この清掃作業は、松山人の優しさと地域の大切さを生徒、教職員の心の中に定着させてくれている。

古びてはいるが、勝山中学校の校門は城北高等女学校時代からの洒落た気品のある校門である。また、運動場の一角にあるユーカリの一本もその頃のものである。それにあやかって、勝山中学校の当時のOB会を「ゆうかり会」と名付け、旧交を温めている。



「えひめ教育の日」記念事業 《まつやま教育フォーラム22》講演会



H22.11.6 (土)
文教会館にて

—— Photo Live ——

悠久のアラスカ

by 写真家 松本 紀生

“地球の極北に雄々しく生きるもの かわいらしく生きるもの
あなたもアラスカの大地に立ってみませんか”

と、お誘いしましたところ200名もの方々がお集まりくださいました。そこで、お声を聞かせていただきました。



さくら小学校 亀岡 修 教諭

松本さんのフォトライブを観ると、なんだか涙が出そうになります。わたしが失ってしまったものを松本さんがもっているような気がして。わたしは中山の山で育ちました。春には野いちごを採り、夏にはカブトムシを捕り、秋にはアケビを採り、冬にはつららを取り…。自然のにおいを、季節のにおいを全身で感じながら生活していました。

そんなことを思い出させる圧倒的なスケールの大自然。ただ、ただ、感動。

星野道夫さんの「森へ」を読んだときのような、穏やかな気持ちになれました。この感動を子どもたちにも伝えていきたいです。



味酒小学校 岡田 恵 教諭

松本さんの大ファンで、フォトライブがあると聞くと県内どこへでも、もう何十回となく参加させていただいています。そして、必ず、心癒されて帰ります。写真の裏にあるその写真を撮るために松本さんが傾けたであろうアラスカへの思いや夢に向かう情熱に、元気と勇気ももらって帰ります。

今回は、初めて秋のアラスカを見ることができました。一面に広がる赤や黄色の葉っぱたち…。アラスカにも、短いけれど四季があることに、何だかうれしくなりました。

さあ、子どもたちにも話さなきゃ！



湯山小学校 楠本 真人 教頭

どこまでも深い海の青やザトウクジラの力強い生き方
冬の静寂と孤独感

広大な白の世界とオーロラの美しさ

どれをとってもスケールの大きさに目を見張るものばかり。自然ばかりではない、映し出された写真そのものや松本氏自身の生き方にも、スケールの大きさに感嘆させられる。

松本氏のフォトライブはもう何度となく視聴しているが、毎回わたしに活力を与えてくれる。講演が終わって、早速松本氏の写真集を購入した。

講演でもらった感動をいつまでも自分のものにしておきたい！

湯築小学校 河淵 陽子 教諭

松本さんのフォトライブから思い出した言葉。

「夢めざし いのち輝かせ」という湯築小学校の児童スローガン。

アラスカの大自然、そしてオーロラが語りかけてくるもの。

それは、いのちの輝き。

自分のいのちと向き合い、夢に向かって、よりよく、より自分らしく生きようとする湯築小卒業生である松本さんの姿は、わたしたちに夢と感動と勇気を与えてくれた。「ありがとう。」そう伝えたい。

**桑原小学校 松浦 正壽 教頭**

軽快なトークと幻想的なスライドショーや動画。そして、心地よいBGM…。仕事に追い立てられている毎日ですが、スクリーンには非日常の世界が広がっており、穏やかな気持ちで過ごすことができました。

オーロラが広がる雄大で美しいシーン。その一瞬を写し撮るためには、氷点下40度の冬のマッキンリーでの2か月にも及ぶ過酷な生活があるとのこと。驚きと感動でした。

一度きりの人生、よい時間を過ごしたいものだと思改めて感じました。

**森田 正子 北久米支部長**

わたしは山が大好きである。時間とお金、体力が許せば、トレッキングを楽しんでいる。しかし、北米最高峰のマッキンリー山の自然やその頂にかかるオーロラ、無人島的美、ザトウクジラの鳴き声等を肌で感じることは、今のわたしには望めない。そんなわたしにとって松本さんのライブは衝撃的であった。命をかけての撮影であるだけに臨場感に包まれ、まるでそこに居合わせているかのようで、丸ごと堪能した。特に、無人島の写真はわたしに諸々を訴えていた。

**宇都宮 正男 石井支部長**

光の芸術のようなオーロラ

ふかふかの苔に覆われた緑の原生林

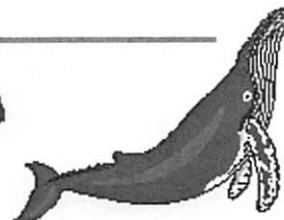
巨大なザトウクジラの群れの頭脳的なハンティング

今にも降って来そうな満天の星

マイナス40度の厳寒の中での生活・・・等々

本当に感動、感動のフォトライブだった。松本氏の話を知っていると、アラスカの自然の美しさ、豊かさ、不思議さ、怖さ、苛酷さ等がひしひしと伝わってくる。それは、松本氏が命をかけて撮った写真であり、掛け替えのない体験そのものだからであろう。

作家の遠藤周作氏が小説を書くのは「くるたのしい」（苦しいけど楽しい）と言っていた。松本氏の写真も辛抱し苦勞し努力して初めて手にすることができた成果であり、楽しさの源泉なのであろう。「アラスカ無人島だより」（松本紀生写真集）のページをめくりながら、機会があったら再度松本氏のフォトライブに参加したいと思っている今日この頃である。



年明け早々に再び酷寒の氷河の上へ飛び立たれる予定です。今回はどんなアラスカが彼を待ち受けているのでしょうか。

暖かくなった春にまた日本に戻り、今期の“冬のアラスカ”を見せてくださることでしよう。



ブロック紹介

楽しいブロックの活動を

第5ブロック理事（和気支部長） 大内 博久

第5ブロックは、昔からよく言う城北地区である。北から堀江、和気、潮見、久枝、みどり小学校の5校と、内宮、北、鴨川中学校の3校、計8校である。何年か前にブロック会をしようと支部長会で決まった。そのときは、支部長会の後で集まって話し合う程度であった。しかし、今年度から、ブロック会の予算がつき活動費支出内訳を報告しなければならなくなった。それで、初めて、第5ブロックの教育会の代表者会を開催してみることにした。会場はみどり小学校がいいという意見が出たので、会場校の都合も聞き、10月14日(木)に行った。当日、支部長5名、各小中学校の管理職8名、計13名全員の出席があり、非常にありがたかった。

会は、自己紹介で始まり、教育会理事会の報告をしたり、「まつやま教育フォーラム22」についてのお願いをしたりした。その後、各支部の活動状況の報告などの情報交換を行った。

支部で研修旅行を行っているとか、小学校の参観日のあと支部総会をしたとか、放課後の児童クラブの手伝いをしているとか、各支部で活動している様子が話された。しかし、OB会員の高齢化のため、支部の活動ができにくいとか、支部長をしてくれる人がいないため困っているというような課題も出された。

今後、ブロック会の活動として、OB会員はもとより、現職の先生方にとっても楽しい活動となるようなことを実施できたらなあと思っている。たとえば、私が現職のときには、春にはバレーボールの大会があり、夏にかけてはソフトボールの大会があつて楽しんだものである。現職の先生方向けに、体を動かして楽しむスポーツ大会とか、児童・生徒にも使える楽しいゲームの指導法などを計画し、楽しいブロックの活動となるようにしたいものである。

松山市教育会「人材バンク」事業

松山市教育会では、皆様のお力を学校教育に役立てていただくと共に、皆様に生きがいを感じていただきたいと考え、松山市教育会人材バンク事業を推進しています。

1 趣旨

松山市教育会の会員からより多くの指導者を募り、市内の小中学校に指導者情報を提供するとともに、指導者とともに学ぶ生涯学習社会の形成を推進する。

2 事業の名称

松山市教育会人材バンク事業

3 実施主体

松山市教育会
松山市教育研究協議会

4 登録について

- (1) 登録希望者は、「人材バンク登録申請書」を地域の小学校事務局へ提出する。
- (2) 教育会事務局では人材バンク指導者一覧表を作成し、市内の各小中学校に配布する。
- (3) 指導を希望する学校は、教育会事務局に連絡をする。
- (4) 教育会事務局は、指導者と連絡を取り、話がまとまれば学校に連絡をする。
- (5) 学校は、指導者と連絡を取り、指導を受ける前に教育会事務局に派遣申請書を提出する。
- (6) 学校は、指導を受けた後、教育会事務局に実施報告書を提出する。

5 登録事項の変更

登録事項に変更が生じた場合には、すみやかに地域の小学校事務局へ連絡する。

6 その他

指導は原則として無報酬とし、学校への往復途上の事故等もすべて個人の責任とする。

現在、郷土史、川柳、舞踊、スキー指導、パソコン、書道などの分野で、16名の方が登録しています。人材バンクの利用を希望する学校は、松山市教育会事務局へ連絡ください。